

2022年11月10日

ボーイング 737 MAX シリーズの導入を決定

スカイマークは、現在運航中のボーイング737-800型機の後継機として、ボーイング737 MAX シリーズを導入することを決定し、今般、ボーイング737-8型機6機のリース契約を締結しました。これらの機材については、2025年度第1四半期より導入を開始し、現行機材を更新するとともに、更なる成長に向けて保有機材数を拡大してまいります。

さらに、ボーイング737-8型機及びボーイング737-10型機計6機(確定4機、オプション2機)の発注についてボーイング社と基本合意しました。これらの機材は2026年度より順次導入する計画で、今後、正式契約の締結に向けてボーイング社と協議を続けてまいります。



※画像はイメージ

ボーイング737-8型機及びボーイング737-10型機(※)は、同社のボーイング737 MAXシリーズの機材です。ボーイング737-8型機は、ボーイング737-800型機との比較で座席あたりの燃料消費量及び二酸化炭素排出量を約15%軽減できることが見込まれる機材となります。また、ボーイング737-10型機は、ボーイング737 MAXシリーズの中で最も胴体が長い機材で、座席数

ご注意:この文書は当社の企業情報等の提供を目的としており、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。

また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見通し、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の結果は、国内外の経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

本記者発表文は、米国における証券の募集又は販売を構成するものではありません。当社普通株式は1933年米国証券法に従って登録がなされたものでも、また今後登録がなされるものでもなく、1933年米国証券法に基づいて証券の登録を行うか又は登録の免除を受ける場合を除き、米国において証券の募集又は販売を行うことはできません。

が増加することにより、ボーイング737-800型機との比較で座席あたりの燃料消費量及び二酸化炭素排出量を約19%軽減できることが見込まれます。

(※)ボーイング737-10型機は米国連邦航空局の型式証明取得に向けて現在開発が進められております。

スカイマークは、今後とも安全で安心かつ高品質な航空サービスを、身近な価格で提供してまいります。

【導入予定機材の概要(メーカーカタログ値)】

	ボーイング 737-8 型機	ボーイング 737-10 型機
全長	39.5m	43.8m
全高	12.3m	
全幅	35.9m	
航続距離	6,570km	5,740km
搭載エンジン	CFM LEAP-1B Engines	



※画像はイメージ

以上

ご注意:この文書は当社の企業情報等の提供を目的としており、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。
また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見通し、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の結果は、国内外の経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。
本記者発表文は、米国における証券の募集又は販売を構成するものではありません。当社普通株式は1933年米国証券法に従って登録がなされたものでも、また今後登録がなされるものでもなく、1933年米国証券法に基づいて証券の登録を行うか又は登録の免除を受ける場合を除き、米国において証券の募集又は販売を行うことはできません。